

蕨むかし ばなし

Vol.4



イラスト:砂川 敦志【Sunagawa Atsushi】

蕨市に語り継がれる

昔話をご紹介します。

火事を教えたお地蔵様

昔々のこと。

大門町（現在の蕨市北町一丁目）に煙草屋さんがありました。煙草屋さんのご主人は、とても商売熱心で信心深い人でした。

雪の降る寒い夜のこと。その日は仕事がはかどったので、夕方には店をしまい、刻んだ煙草がしけないように奥の部屋の戸棚の中に入れて床につきました。

すっかり寝入ったころ、店の雨戸をドンドンとたたく音にまにかお坊さんの姿が見えなくなっています。

「火事だあ」と大声で叫び家族を起こすと、お坊さんは落ち着いて人々を指揮し、すぐに火を消すことができました。「やれやれ、よかつた」と胸をなでおろしましたが、いつのまにかお坊さんの姿が見えなくなっています。

主人は、「どうしてもお札を申し上げたい。この雪なので、まだそう遠くへは行くまい」と店の外に出ると、雪の上に大きな足跡が続いています。その足跡を追いかけていくと、三学院の入口にある大きなお地蔵様のところで足跡は消えていました。

主人がお地蔵様を見上げると、お地蔵様は全身びっしょりと濡れ、体には灰がついているではありませんか。

「きっとお地蔵様がお坊さんの姿となつて、信心深い煙草屋の主人に火事を教えるため、奥の部屋の戸棚にある煙草を持つこさせたのだ。ありがたいお地蔵様だと、お地蔵様にお参りする人々が、後を絶たなかつたということです。

雨戸を開けると、大きなお坊さんが立っています。
「煙草をください。」
と言うので、手近にあつた煙草を渡そうとしたところ、「ほかの煙草が欲しいのです。」

と言つて、渡そうとした煙草を受け取ろうとしません。
主人が仕方なく、奥の部屋の煙草が入っている戸棚を開けたところ、中から煙と炎が吹き出し、たちまち障子に燃え広がりました。

「火事だあ」と大声で叫び家族を起こすと、お坊さんは